



英国の子ソーシャルワーカー
の育成体系(PCF)と
児童家庭分野に必要な知識と技術(KSS)
及び
倫理規定(RPS)

増沢高 (子どもの虹情報研修センター)

1. イギリスの人材育成の基盤となるもの

○PCF:ソーシャルワーカーの包括的人材育成体系 (Professional Capabilities Framework)

ソーシャルワーク全般のための、総合的な機能の枠組み 2010年から8年間かけて開発。BASWが管理。(資料1)

○KSS:児童家庭ソーシャルワーカーが学ぶべき知識と技術 (Knowledges and Skills Statement for Child and Family practitioners) ※成人向けKSSはこれと異なる

ソーシャルワーカーが、何を知っており、何ができるようになるべきかを記述したもの。主にPCFの実践領域にマッピングされる(資料2)

○RPS:ソーシャルワーク・イングランドの倫理規定 (Regulatory Professional Standards in England)

ソーシャルワーカーがその職業に止まり、ソーシャルワークを名乗るために必要不可欠な姿勢(資料3)



2. PCF ソーシャルワーカーの包括的人材育成体系 (PROFESSIONAL CAPABILITIES FRAMEWORK (PCF))

(資料1)



能力 (Capabilities) とは

新規の、複雑かつ変化しつつあるケースの状況に対して、適切に、効果的に、自分の知識、技術、資質、価値観等を総合して判断し、実践する能力



3. PCFの領域

①プロ意識 (Professionalism)

②価値と倫理

③多様性と平等

④権利、正義、経済的福祉

⑤知識

ソーシャルワーク実践および研究、社会科学、法律その他の専門分野およびケースから得られる知識を深め、実践に活用する力

⑥批判的振り返りと分析

自らの実践を説明でき、自らを批判的に振り返る力

⑦介入と技術

適切に判断し、介入する技術

⑧文脈(状況)と組織 (Contexts and Organisations)

状況を読み取り、機関協働を図っていく力

⑨専門的リーダーシップ

スーパーバイザーなどの後進の育成に取り組める力



4. KSS: 児童家庭ソーシャルワーカーが学ぶべき知識と技術 (KNOWLEDGES AND SKILLS STATEMENT FOR CHILD AND FAMILY PRACTITIONERS: KSS)

資格取得時の子ども家庭ソーシャルワークに必要な知識と技術

(資料2)

- ① 人間関係と効果的な直接支援
- ② コミュニケーション
- ③ 子どもの発達
- ④ 大人の精神疾患、薬物乱用、DV、身体疾患及び障害
- ⑤ 子どもの虐待とネグレクト
- ⑥ 子どもと家族のアセスメント
- ⑦ 分析、意思決定、計画、見直し
- ⑧ 法律と家庭・青少年の司法制度
- ⑨ スーパービジョンの役割
- ⑩ 組織的文脈 (Organisational context)



5. RPS:ソーシャルワーカーの倫理規定 (Regulatory Professional Standards in England)

(資料3)

- ①権利と強み、人・家族・コミュニティのウェルビーイングの推進
- ②人々の信頼と信用を築き、維持する
- ③自分の実践と意思決定のクオリティに責任を持つ
- ④自分の専門能力の継続的向上を維持する
- ⑤安全に、敬意をもって、プロとして誠実に行動する
- ⑥倫理的実践を推進し、懸念を報告する



6. PCF、KSS、規制基準の関係(資料4)

	PCF	KSS	倫理規定
目的	<ul style="list-style-type: none"> ② 価値と倫理 ③ 多様性と平等 ④ 権利、正義、経済的福利 	<ul style="list-style-type: none"> ① 人間関係と効果的な直接支援 ⑨ スーパービジョンの役割 	
実践	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 知識 ⑥ 批判的振り返りと分析 ⑦ 介入と技術 	<ul style="list-style-type: none"> ① 人間関係と効果的な直接支援 ② コミュニケーション ③ 子どもの発達 ④ 大人の精神疾患、薬物乱用、DV、身体疾患及び障害 ⑤ 子どもの虐待とネグレクト ⑥ 子どもと家族のアセスメント ⑦ 分析、意思決定、計画、見直し ⑧ 法律と家庭・青少年の司法制度 ⑨ スーパービジョンの役割 ⑩ 組織的文脈 	
影響力	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 文脈(状況)と組織 ⑨ 専門的リーダーシップ ① プロ意識 	<ul style="list-style-type: none"> ① 人間関係と効果的な直接支援 ⑨ スーパービジョンの役割 ⑩ 組織的文脈 	

	PCF	KSS	倫理規定
目的	<ul style="list-style-type: none"> ②価値と倫理 ③多様性と平等 ④権利、正義、経済的福利 		<ul style="list-style-type: none"> ①権利と強み、人・家族・コミュニティのウェルビーイングの推進 ③<u>自分の実践と意思決定のクオリティに責任を持つ</u> ⑤安全に、敬意をもって、プロとして誠実に行動する
実践	<ul style="list-style-type: none"> ⑤知識 ⑥批判的振り返りと分析 ⑦介入と技術 		<ul style="list-style-type: none"> ②人々の信頼と信用を築き、維持する ③<u>自分の実践と意思決定のクオリティに責任を持つ</u> ④自分の専門能力の継続的向上を維持する
影響力	<ul style="list-style-type: none"> ⑧文脈(状況)と組織 ⑨専門的リーダーシップ ①プロ意識 		<ul style="list-style-type: none"> ②人々の信頼と信用を築き、維持する ③<u>自分の実践と意思決定のクオリティに責任を持つ</u> ④自分の専門能力の継続的向上を維持する ⑤安全に、敬意をもって、プロとして誠実に行動する ⑥倫理的実践を推進し、懸念を報告する